

令和元年度 事業概況報告

I. はじめに

令和元年が明け、2年度の1月頃から中国武漢市が発症源と言われております新型コロナウイルス感染症の流行が世界中に広がりを見せ、現実的にPCR検査で陽性の方も全国的に見受けられるようになり、2月下旬から小・中・高校等の一斉休校が実施され、特養ホームや保育所等の社会福祉施設は医療従事者等の就業支援の重要な施設として運営を義務づけられ、日々「三蜜」禁止と言われる中で、特に「密集」、「密接」業務が避けがたい保育園・特養ホームでの感染予防に苦心しながら、運営を続けており、保育士や介護士等の職員は、緊張しながら日々業務に追われ疲弊しております。

利用されている高齢者にとって、家族との接見禁止措置をとっております。利用者の大切な家族は心のよりどころであり、人と会ったり人と話したり、体を動かすことは生きる力の火を燃やす大切な行為であります。一方、そういった日常が途絶えるとストレス状態に陥ります。精神的に不安定になったり、認知機能が下がったりしており、環境の変化は精神的にも肉体的にも、高齢者の生きる力を著しく低下させております。我々の施設では家族と利用者がオンラインで意思の疎通が行えるようにしております。

さて、一年を通じては、職員の採用難になっており、我々も保育士採用のリクルート活動を何回も開催し、ある程度の保育士数を確保しましたが、年度末には多く退職者が出て、内定者数よりも多くなり、保育士確保に難儀しました。我が国も、インターネット(スマホ)による一方的な情報により、コロナウイルス感染症に関わる陽性者・医療従事者及びその家族等に対する言われなき差別的誹謗中傷などを仄聞しますと、関東大震災時の朝鮮人差別引いては外国人労働者差別・排斥につながる恐れがあります。そのような中で、今年からインドネシアスラウェシ島(蘭語:セレベス島)出身の女性1人が特定技能(介護士資格)を修得するため、「特養あおやま」に2月下旬から就職しており、今後の外国人枠拡大の先達になってくれることを期待しております。

II. 元年度 事業概況報告について

令和2年3月末の各保育園・分園の歳児別の利用児童数表 調書Ⅰを報告します。

令和 元年度 3月末日の 各保育園・分園・歳児別 利用児童数 調書							
保 育 園 名 (定員)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
白鳥保育園 (120)	9	10	15	17	41	30	122
八幡分園 (60)	6	14	12	14	/	/	46
小計 (180) (3歳未満児率)	15	24 (39.3%)	27	31	41	30	168
白鳥南保育園 (60)	3	6	13	17	17	13	69
下手野分園 (30)	3	6	7	/	/	/	16
小計 (90) (3歳未満児率)	6	12 (44.7%)	20	17	17	13	85
青山保育園 (160)	9	20	25	33	55	41	183
市役所北分園 (45)	5	16	12	12	/	/	45
小計 (205) (3歳未満児率)	14	36 (38.2%)	37	45	55	41	228
計 (475)	35	72	84	93	113	84	481
(3歳未満児/以上児)	(39.7%)			(60.3%)			

表 調書1は、各保育園・各分園の歳児別の利用児童数であるが、白鳥・白鳥南保育園 各分園が定員数に達していない現状に鑑み、地域社会との繋がりのなさを露呈しており、今後の少子化が加速する中で、利用児童獲得のための誘因すなわち渉外活動を法人トップも率先し、活発化する必要があります。

各保育園に従事した職員数の内訳は、（白鳥保育園：施設長 1 人、〈正〉保育士 10 人、非常勤保育士 2 人、パート保育士 5 人、無資格パート職員 1 人、〈正〉調理員 0 人、非常勤調理員 1 人、運転手 1 人 小計 24 人 八幡分園：〈正〉保育士 4 人、非常勤保育士 2 人、パート保育士 6 人、無資格パート職員 1 人、パート調理員 1 人 小計 14 人 計 38 人）（白鳥南保育園：施設長 1 人、〈正〉保育士 8 人、パート保育士 2 人、非常勤調理員 2 人、事務員 1 人 小計 14 人 下手野分園：〈正〉保育士 4 人、パート保育士 2 人 小計 6 人 計 20 人）（青山保育園：施設長 1 人、〈正〉保育士 12 人、非常勤保育士 6 人、パート保育士 3 人、〈正〉調理員 1 人、非常勤調理員 1 人、パート調理員 2 人、事務員 1 人 小計 27 人 市役所北分園：〈正〉保育士 5 人、非常勤保育士 1 人、パート保育士 8 人、パート調理員 1 人 小計 15 人 計 42 人） **総計 100 人**の体制で、元年度は各保育所施設の運営に従事しました。

特養ホーム「あおやま」は、世間では、介護士等の人材確保が至難と言われる中で、正規・非正規 併せて 要員が曲がりなりにも確保できていることは、運のいいことではありますが、一年間 通して 退職者が延べ人数 25 人にもなり、職員の補充に今年も追われ通しの一年間でありました。しかし、3 月 31 日末 現在、特養ホームの利用者は 66 名（70 名 定員）・短期利用者 12.8 名、ディサービス定員 30 名であり、全職員 **計 96 名** < 特養部門：施設長 1 名、介護常勤職員 45 名、常勤的非常勤職員 8 名、パート職員 19 名、技能実習生 1 名、派遣職員 8 名 小計 82 名 > < ディサービス部門：正規職員 4 名、常勤的非常勤 1 名、パート職員 5 名、派遣 2 名 小計 12 名 >、< 居宅介護支援事業所部門 2 名 > 人員体制で 運営しております。

元年度末の財務諸表については、当法人全体で、収入は、7.6%（昨年度 890,714 千円 → 本年度 958,786 千円）の増収で、支出は 0.3%減（昨年度 843,718 千円 → 本年度 840,896 千円）になっており、各施設設備の借入金の元利返済合計年額が 6 千万円となっております。また、各種積立金合計額は、**188 百万円**で、前年同期より 7.4%減となっており、手持ち現預金も **127 百万円**で昨年度と同額程度で推移しており、手持ちの現金・預金の計は、**315 百万円**です。当期資金収支差額は 58,990 千円となっております。特養ホーム「あおやま」の施設整備借入金の元利返済が昨年より始まっていますので、より一層経営の箍を締める必要があります。費用対効果で、ディサービス事業に期待する

ところが大きであったが、2、3月は、新型コロナ ウイルス感染症があり、そのため利用控えもあり、一年を通じて目標に達していないので、介護事業では収支差額が開設3年目でマイナスにならずに少々プラスになったことに安堵しております。また、苦情処理委員会は、一年3回開催し、介護士等や保育関係職員の施設内外等の研修会は、コロナ感染予防並びに介護・保育専門的サービス、感染症を含むリスク管理等の研修を頻繁に行い、職員の習熟をはかっております。

III. 終わりに

我が国の行政機構は前例主義にとらわれ、発想の転換がなかなかできないで国民・市民は大変迷惑しております。新型コロナ対策の予算を出し惜しみすれば、国民の命も失われ、もちろん経済も長期に渡り、低迷し、社会保障の財源がなくなり、今よりもっと格差を生み、国民が迷惑すると思います。

こうした難しいコロナ ウイルスとの戦争には、「思考の三原則」に立ち返ることが肝要だと思っております。

第一 目先に捉われず長い目で見る

第二 一面的に見ないで多面的 全面的に観察する

第三 枝葉末節にこだわることなく根本的に考察する

我々として、新型コロナ ウイルス感染症の問題は、もちろん阿鼻叫喚でもなく、自然な流れに逆らわず、流れに乗って流れていき、美空ひばりが謡う「川の流れのように」と、テレサ・テンが唄う「時の流れに身をまかせ」の歌詞を合わせると「川の流れに身をまかせ」が人間の本質であり、何人も山あり、谷ありの重荷を背負うものだと思っており、V字回復は容易なことではないが、「After コロナ」だけでなく、「With コロナ」の世界も意識せざるを得ない状況の今は我慢し、乗り越えるときだと考えております。

以上